

第5分科会 リハビリテーションの現場で求められるもの

運営委員 宮森 拓真（長野・厚生連労働組合）

吉田 翔（石川・民医労）

問題提起

皆さんがリハビリテーション(以下、リハビリ)の現場で、日々大切にしていることは何ですか。

2002年にリハビリの診療報酬が「単位」制になり、PT・OT・STの労働量が「単位数」という言葉で、ものすごく単純に可視化されたとも言えます。出来高で大きな収益を見込める分野としてリハビリにかかる期待はどここの病院・施設でも大きいのではないのでしょうか。「単位数」で労働や個人の能力さえ評価する風潮が強くなっている一方で、日々の業務では、診療記録やリハビリ総合実施計画書、退院時サマリー、情報共有などの間接業務が増えてきています。毎日単位をこなすことに追われていませんか？

地域包括ケアシステムが作られる中、各自治体での総合事業の取り組みが本格化し、患者や利用者の人権・受療権を守る取り組みが必要となっています。2019年に介護保険認定者の外来リハビリが打ち切られ、介護保険サービスへの誘導がすすめられています。患者・利用者の「リハビリを継続したい」という思いやリハビリスタッフの「もう少しリハビリを続けたい」という思いもあるのではないのでしょうか。私たちの仕事は社会保障制度と密接に関係しています。近年では、コロナウイルスの感染対策上、患者・利用者と関わる時間が十分に作れない、リハビリ内容が制限されるという方もいるのではないのでしょうか。

また、リハビリ職は若い世代かつ女性の比率が高く、安心して、子育てしながら働き続けられる環境作りは大きな課題です。最近では、リハビリ専門職の賃金について取り上げられています。高齢化社会において、病気や老化等で生活機能が低下した患者の回復を助けるリハビリ専門職の社会的な役割は大きいと思われます。しかし、リハビリ専門職の賃金は20年来横ばいが続き、同じ国家資格でも看護師や薬剤師等の賃金が増加傾向にある中、「職種格差」が広がっています。安心して働き続けるためには、このような待遇の改善も必要なのではないのでしょうか。

この分科会でそれぞれの職種の実践や日頃感じていることなどをレポートとして持ち寄り、全国の仲間と問題を共有し討論して、明日からの力にしていきたいと思います。コロナ禍での実践や職場環境についてのレポートもお待ちしています。なお、レポートは期限までに提出していただきますようお願い致します。レポートは症例報告でも構いませんが、その症例を通して問題提起などの内容について皆さんの考えを述べてください。また、当日のプレゼンテーションでは動画の使用はできません。動画使用の場合は、ご自身のパソコンをお持ち頂きますようお願い致します。皆さんのご参加をお待ちしております。